

公共交通 メールマガジン

令和元年
12月27日発行
第70号

編集：国土交通省
総合政策局交通政策課



平素より、当メールマガジンをご愛読いただきありがとうございます。
今回は以下のラインナップでお送りいたします。



「第6回おでかけ交通博2019inはちのへ」を開催しました！

(東北運輸局)



自治体担当者向け勉強会『がんばる地域応援プロジェクト2019』の下半期編を実施！

(関東運輸局)



第19回ビジネス講座

「日本の交通政策における新モビリティサービス・Maas活用の可能性」
～国内外の事例紹介～ を開催しました！！

(関東運輸局)



「石川運輸支局ふれあいフェスタ2019」を開催しました！

(北陸信越運輸局石川運輸支局)



「地域公共交通シンポジウム in 中部」を開催しました

(中部運輸局)



近畿運輸局「お手伝いしましょうかにゃ？」運動開始！

(近畿運輸局)



広島路面電車が大きく変わろうとしています

(中国運輸局鉄道部)



地域公共交通セミナーin四国を開催しました！

(四国運輸局)



地域公共交通のあり方を考えるシンポジウム2019in九州を開催しました

(九州運輸局)



のりたろう活動報告

「駅祭ティング2019in天王寺公園」

「のってまろう！ちいきのこうつうイベント in 丹波ゆめタウン」に登場！(近畿運輸局)

<掲示板>

☆ 地域公共交通支援センターについて

☆ 公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」について

「第6回おでかけ交通博 2019in はちのへ」を開催しました！

(東北運輸局)

東北運輸局交通政策部交通企画課では、令和元年10月18日(金)に八戸グランドホテルにおいて「第6回おでかけ交通博 2019in はちのへ～みんなで「おでかけの足」を考えませんか～」を開催しました。

(共催：八戸市 協力：福島大学)

「おでかけ交通博」は、主に地方公共団体の交通担当者や交通事業者を対象として、喫緊の課題である地域の「おでかけの足」について考えるきっかけとするべく平成27年より開始し、今回で6回目(過去開催は福島、弘前、山形、北上、秋田)の開催となり、約160名の方に参加いただきました。

午前中は「トークセッションwith東北仕事人」と称し、開催地域の交通やまちづくりに携わる方達と有識者にご登壇いただき、パネルディスカッションを行いました。福島大学・吉田准教授にコーディネーターを務めていただき、パネリストとして、開催地からは共催の八戸市役所とDMOである一般財団法人VISITはちのへ、また同じ八戸圏域市町村から五戸町役場と階上町役場、そして東北地方で活躍されている有識者で「地域公共交通東北仕事人」であるNPO法人岩手地域づくり支援センターの若菜氏よりご発言をいただきました。



【パネルディスカッションの様子】

午後には自治体や交通事業者などの22団体に出展いただき、ポスターセッションを実施しました。各団体から1分間で取組をPRしていただき、その後、取組をまとめたポスターや資料により、それぞれの取組について説明いただきました。参加者は興味関心のある団体の取組について、担当者より詳細を伺いながら意見交換を行いました。



【ポスターセッションの様子】

また、翌日 19 日（土）にはエクスカーションを開催し、希望者で企画乗車券「みんなで八戸 1D a y パス」を活用した八戸市内の視察を行いました。あいにくの雨により当初の予定を変更しながらの行程となりましたが、八戸まちなか広場マチニワを八戸市営バスで出発し、陸奥湊地区では八戸市営魚菜小売市場などを視察、最終的には JR 八戸線から八食 100 円バス（南部バス）を乗り継ぎ、八食センターで解散となりました。



【視察で立ち寄った八戸市営魚菜小売市場】



【JR 八戸駅から八食センターへ】

今年も多数の方に参加いただきました。次年度以降においても、地域の交通への取組を後押しする機会を提供していきます。

◎おまけ

天候不良によりエクスカーショんで視察できなかった視察先をちょっとご紹介します。

【三陸復興国立公園・種差海岸】

波打ち際まで敷き詰められている天然の芝生「種差天然芝生地」は、種差海岸を代表する景観の 1 つです。また、同海岸沿いにはウミネコの繁殖地として国の天然記念物に指定されている「燕島」があり、その頂上には商売繁盛、漁業安全の守り神として信仰されている「燕嶋神社」があります。（燕嶋神社は現在再建工事中ですが、2020 年 3 月頃に完成予定）

当初の予定では、八戸市営バスの「ワンコインバス うみねこ号」が JR 八戸線の鮫駅～種差海岸駅間を海岸沿いに運行しており、こちらを活用して鮫駅前から種差海岸インフォメーションセンターまで移動し、周辺の視察を行う予定でした。

今回は残念ながら種差海岸には現地視察として訪れることができませんでしたが、もし青森県八戸市を訪れる機会がありましたら、ぜひ公共交通を使った周遊をお楽しみください！



種差天然芝生地



燕嶋神社（工事中）



ワンコインバスうみねこ号

自治体担当者向け勉強会『がんばる地域応援プロジェクト2019』の下半期編を実施！
(関東運輸局)

～ 各地域に出向いて、地域の抱える公共交通の課題解決に向けた取組をサポート～

関東運輸局では、「がんばる地域応援プロジェクト」と題して、地域の抱える課題が多様化・複雑化する中で、現実の課題と理想とする姿をつなぐための施策を、地域と二人三脚で模索していくための勉強会を開催しております。

今般、下半期編として、関東管内4地域（前橋市、立川市、さいたま市、千葉市）において、先進的な取組を行っている自治体による事例発表と参加者による意見交換・抱えている課題に応じたテーマ別グループディスカッションを中心とした勉強会を10月～12月にかけて開催しました。

今回は、まず、関東以外の地域で先進的な取組を行っている自治体も含めて、大都市郊外部・地方中小都市・山間部など様々な地域特性の自治体の方々から事例発表をしていただくとともに、関東運輸局からも交通政策の今後の動向等について情報提供させていただきました。

グループディスカッションでは、網形成計画や再編実施計画の策定手法や関係者との調整手法、具体の記載内容や、新しい地域内交通の導入に向けた検討方法、既運行の公共交通の利用促進策など、様々な内容の相談が寄せられました。事例発表いただいた自治体や他の参加自治体の経験談などを踏まえて、有意義な議論ができたかと思えます。

なお、実施日時・場所、事例発表の概要等は以下のとおりですので、ご参照いただければ幸いです。

【群馬会場】

令和元年10月25日(金) 前橋市・ぐんま男女共同参画センター

事例発表：朝日町（富山県）及び柏市（千葉県）

参加者数（参加自治体数）：19名（17自治体）

<勉強会概要>

群馬県交通政策課のご協力をいただき、初めて群馬県内で開催する「がんばる地域応援プロジェクト」となりました。

当日は、悪天候のなか群馬県内の半数近くの自治体が出席していただき、富山県朝日町、千葉県柏市の担当者をお招きして事例発表していただきました。朝日町の町営バスを中心とした公共交通に関する取り組みのなかでは、バスの運行を維持していくうえでの対策や今後の課題について、分かりやすく説明していただきました。

また、柏市については、デマンド交通への導入背景や問題点も分かりやすく説明していただきました。バスだけではなく、タクシー車両の有効活用など、網形成計画を策定するうえで非常に参考となる内容でした。

【東京会場（多摩エリア）】

令和元年11月6日(水) 立川市・立川商工会議所

事例発表：豊田市（愛知県）及び飯田市（長野県）

参加者数（参加自治体数）：31名（17自治体）

<勉強会概要>

東京都内では、郊外部において高齢化が進展した住宅団地における交通手段の確保が課題になっているとともに、隣接する山梨県においては山間部での公共交通の持続可能性の確保と観光客の二次交通の確保が大きな課題となっています。こうしたことを踏まえて、下半期編の第2回は多摩地域で開催し、結果として、近隣の多摩地域や山梨県の自治体にご参加いただくことができました。

事例発表では、自家用自動車の普及に伴って、比較的山間部に位置しつつ、公共交通の弱体化に歯止めをかけるために取組を進めている長野県飯田市、大都市郊外部において多様な公共交通を確保して住民ニーズに responding している愛知県豊田市の2自治体から発表していただきました。

飯田市からは、複数市町村で地域公共交通網形成計画を策定した内容を主に発表していただきました。飯田下伊那地域（飯田市を含め14市町村）の広域連合で、南信州定住自立圏を形成し、医療・福祉・産業振興・環境・教育文化・地域公共交通・交流・移住と様々な政策分野に取り組んでいるなかで、特に交通については、バスの利用者減少により運賃収入が減少し、民間バス事業者から、路線バスの完全撤退の表明があったことをきっかけとして協議会を立ち上げたとのことでした。

平成27年度に網形成計画策定の検討を行い、飯田市のバス時刻表に他町村バスとの結節点を表示するなどの改善や分科会での議論を経て路線の統廃合を行い、飯田市街地までのバス路線を存続させて、地域内は乗合タクシーに移行した事例に関しては、山間部で公共交通の維持が困難となっている自治体にとって、大変参考になったかと思えます。

豊田市からは、平成17年に周辺6町村と合併して都市近郊部と中山間部の2つの顔を持つことになり、鉄道・基幹バス・地域バスをうまく組み合わせ、広大な市域を効率的にカバーして地域交通を活性化させ、使いやすく魅力ある移動手段を確保する取組等を発表していただきました。

また、中山間部では過疎化や高齢化が進んでいるということで、高齢者の移動に関する対策のうち、タクシーを有効活用して車を運転しなくてもよい環境づくりを行い、多様な利用促進策及び生産性・持続可能性の向上策を展開している事例を紹介していただきました。

既にコミュニティバスを運行している自治体においても、運行経費の増大、高齢化などの社会情勢の変化などで運行の見直しや様々な要望に応えるためにはどのような方策が有効なのか、参考となる内容でした。

【埼玉会場】

令和元年11月26日（火）さいたま市・さいたま商工会議所

事例発表：松本市（長野県）及び前橋市（群馬県）

参加者数（参加自治体数）：27名（24自治体）

<勉強会概要>

下半期編の第3回は、関東各地の自治体にご参加いただくべく、交通の利便性が高いさいたま市で開催し、結果として、埼玉県内の自治体の他、茨城県や栃木県の自治体など、幅広い地域の方々にも参加していただくことができました。

事例発表は、比較的山間部に位置する一方、著名観光地も有するなかで、まちづくりと連携しながら交通政策を展開してきた長野県松本市、複数の交通事業者間の連携を促進するとともに、MaaS

等の実証も進めている群馬県前橋市の2自治体から発表していただきました。

松本市からは、歩行者・自転車・公共交通を優先した持続可能なまちづくりの実現に向け、公共交通の利用促進やマイカーの利用抑制などの取組みを総合的に実施するなど、地域公共交通の確保・維持に積極的に取り組んでいる事例を発表していただきました。また、群馬県前橋市からは、MaaS等新たなモビリティサービスの推進に向けた取組と再編実施計画の策定とともに進めているバス路線維持・充実に向けた取組を発表していただきました。新技術の活用や観光誘客の推進、中心市街地の活性化と交通施策をあわせて推進していくことを目指している多くの自治体にとって、非常に参考となる内容でした。

【千葉会場】

令和元年12月2日(月) 千葉市・千葉市生涯学習センター

事例発表：武蔵野市（東京都）及びつくば市（茨城県）

参加者数（参加自治体数）：49名（32自治体）

<勉強会概要>

下半期編の第4回は千葉市で開催しました。事例発表は、都心郊外部において住民ニーズをしっかりと反映して交通施策を展開してきている東京都武蔵野市と、大都市郊外部・地方都市の中で引き続き開発圧力が高い状況にあるつくば市の2自治体に行っていました。

武蔵野市は、平成7年11月に日本初のコミュニティバスといわれる「ムーバス」の運行を開始し、現在に至るまで、住民ニーズへの対応と行政負担のバランスを適切にとって、市の公共交通の活性化を図っている現状をご説明いただきました。つくば市からは、平成28年4月に策定した網形成計画を踏まえ、新たな生活交通の導入やバス路線維持・充実に向けた実証実験等の取組についてご紹介いただきました。いずれも、地域内交通の導入や利用促進、網形成計画の策定等を進める際に、地元住民・交通事業者と議論する上で大変に参考となる内容でした。

以上のように下半期編としては、合計4回にわたる勉強会を開催しましたが、地域の公共交通の持続可能性を高めるために、公的負担のあり方や住民ニーズと効率性のバランスのとり方といった難しい問題への対処や、バス事業者の運転者不足といった社会的な課題への対応等を進めていく上で参考となる意見を幅広く聴く機会を設けられたことは、非常に有意義であったと考えております。

関東運輸局としては、交通施策を推進する際にぶつかる壁を乗り越え、多くの自治体の皆様が地域公共交通の持続可能性の向上に向けて取り組んでいけるよう、今後も自治体の皆様とともに進めたいと考えております。

第19回ビジネス講座

「日本の交通政策における新モビリティサービス・MaaS活用の可能性」 ～国内外の事例紹介～ を開催しました！！

(関東運輸局)

関東運輸局交通政策部では、2017年10月より「関東運輸局ビジネス講座」と銘打ち、公共交通・観光・物流・バリアフリー等、運輸局の業務に関係する題材をテーマに外部より講師を招いて公開講座を開催しています。

2019年度の6回目、通算19回目となる今回は、「日本の交通政策における新モビリティサービス・MaaS活用の可能性 ～国内外の事例紹介～」と題し、モビリティジャーナリスト 楠田悦子氏にご講演いただきました。

講演では、ビジネスを取り巻く環境や、暮らしを支える技術やサービスの現状と変化、また、課題解決に向けてどのようにデジタルテクノロジーを活用して行くべきか、具体的な事例を交えてお話いただきました。

公共交通・移動手段を取り巻く環境や、地域住民の価値観などがこの10年間で大きく変化し、課題を解決するためにデジタルツールをうまく活用して、サービスを組み立てる必要があるとのことで、自動車メーカーも車を作って売るだけではなく、移動サービスの提供を考える時代になるとのことです。

また、欧米では自転車の活用も進んでおり、電動キックボードや小型のモビリティなどの様々なモビリティを活用して行こうという流れだそうです。

また昨今、バスとタクシーの境目がなくなってきており、特にタクシーは配車システムなどのデジタル化が進むなど、大きく変わってきています。

バスについては自動運転などの実証実験が進んできてはいるものの、完全自動運転にはまだ時間がかかり、すぐに人手不足解消につなげるのは難しいとのこと。一方、経営企画・計画を作る人も時間もなく、情報の整理やICカードの活用ができていないとの悩みを抱えるバス事業者も多いとのこと。これからは運輸業からサービス業への転換をはかるべく、時代のニーズの変化に合わせて企画・人材育成ができるような体制を整えて行くことが課題、とのことでした。

また、フィンランドやスイス等の海外の事例や、国内各地で取り組まれている事例を具体的に紹介いただきました。日本のMaaSは、移動手段だけでなく、都市や福祉、観光等の周辺サービス全体を繋げて利便性を高めようという特徴があり、各種データを使って様々な分野のサービスが協働することを考えて行く必要がある、というお話がありました。

今後新モビリティサービスを導入・推進しようと考えている自治体や事業者にとって、先進事例やMaaSの考え方を聞くことができ、大変参考になったのではないかと思います。



【今後の開催予定】

次回の第20回ビジネス講座は、2月6日（木）15：00～「自動運転の現状と今後の進展」～バスの実証運行から見えてくる課題と展望～と題し、前橋市政策部 交通政策課 地域交通推進室 副主幹 南雲 貞人 氏、相鉄バス(株) 企画・安全部長 本岡 利之 氏、SBドライブ(株) 代表取締役社長 兼 CEO 佐治 知基 氏 にご講演いただきます。

詳細及び参加申込みのご案内につきましては、開催日の3週間前を目安に関東運輸局ホームページに掲載いたしますので、ご覧下さい。

<関東運輸局 ビジネス講座 URL>

http://www.tb.mlit.go.jp/kanto/koutuu_seisaku/business/index.html

「石川運輸支局ふれあいフェスタ2019」を開催しました！

(北陸信越運輸局石川運輸支局)

11月9日(土)、石川運輸支局構内において「石川運輸支局ふれあいフェスタ2019」を開催しました。

昨年11月、金沢市直江東に庁舎移転し業務を開始したことを契機に初めて開催し、今回は移転1周年を記念し第2回を開催しました。大人から子供まで楽しめる様々な展示やイベント体験により、自動車関連業界の魅力と役割をPRしました。今回はのりたろうが初登場し、公共交通の利用促進を愛嬌たっぷりにアピールしました。

開催日当日は、雨も心配される天候でしたが、職員、関係団体スタッフが一丸となってイベントを盛り立て、多くの方々にご来場頂き、和やかで笑顔あふれる賑わいある一日となりました。



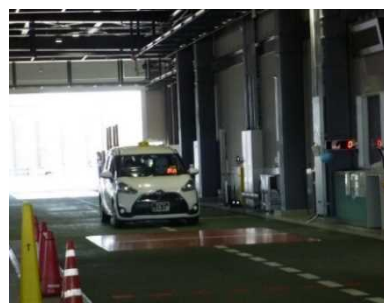
家族連れに囲まれるのりたろう



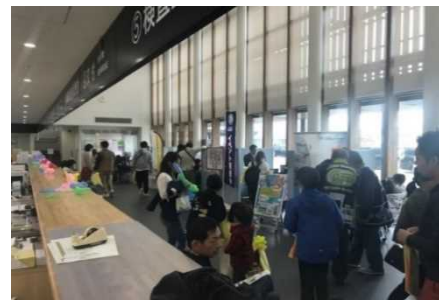
バス車内でもサービス!



皆が思わず笑顔に^^



今回は車両の展示だけではなく、実際に車両に乗りながら自動車検査場内の走行体験も行いました。



衝突回避体験や模擬衝突体験、VR動画体験、バリアフリー体験、職員による自動車検査場の説明会、ペーパークラフト、クイズラリー他、庁舎内外で、様々なイベントを行い、多くの方で賑わいました。

「地域公共交通シンポジウム in 中部」を開催しました

(中部運輸局)

中部運輸局では、令和元年11月6日(水)に東建ホール・丸の内(名古屋市中区)において「地域公共交通シンポジウム in 中部」を開催しました。このシンポジウムは「まちとMaaSと交通と」をテーマに、地域の課題解決に「MaaS」を活用して取り組もうとしている事例の紹介を通じて、これからの地域公共交通が、誰にとっても暮らしやすく、居心地のいいまちづくりに貢献できる可能性を探ることをコンセプトとしました。

当日は自治体の交通担当者や交通事業者の他、自治体の都市計画担当者やコンサルタント会社、シンクタンク等、163名の幅広い業界のみなさまにご来場いただきました。

【基調講演】「未来の都市交通のための論点」 横浜国立大学副学長 中村文彦教授

基調講演では、現在の交通の問題やこれからの動きなどを学術的な視野からご講演いただきました。各国の交通事情等も鑑みつつ、自家用車ではないオプションがあるまちづくりをめざしてゆく手段としての「MaaS」は交通手段だけではなく既存の技術、日常生活のいろいろなシーンと移動をつなげていくことができる。そのためには地域で包括的にリスクを分散させ、責任を明確にしていくことが重要であるとの提言をいただきました。

【パネルディスカッション】

パネルディスカッションでは、「こもののおでかけをMaaSで便利にするプロジェクト」を推進し、町民の生活利便性及び来訪者の移動利便性向上を目的とした町内地域公共交通サービス全体の検索・予約・決済システムの構築を目指している三重県菰野町の柴田孝之町長、人の移動を束ねることで居住や商店など目的施設を自然と集積し、交通事業者と将来のまちのビジョンを共有しながらまちの機能が変わるように誘導していく施策を展開している高松市交通政策課伊賀大介課長補佐、伊豆ではじまっている観光型MaaS実証実験の実行委員長をしてJRや地元の交通事業者・行政と連携しながら住民も含めた移動環境の改善や受け入れ環境の整備など伊豆の地域振興を推進されている東急株式会社交通インフラ事業部森田創課長の3名をお招きし、基調講演いただいた中村文彦副学長をコーディネーターとして、自己紹介を含めた活動内容を紹介いただきました。

パネルディスカッション後半ではパネリストの皆さんが考える「MaaS」の定義や、この先「MaaS」をそれぞれの施策にどのようにつなげていくのかについて、活発に意見交換が行われ、「MaaS」が目的化したとしても、進めていく上で何が問題になっているのかをしっかりと整理していくことが重要であるとのお話しをいただきました。

【個別相談会】

シンポジウム終了後には、自治体や事業者が抱える具体的な問題について、個別相談会を実施しました。自治体を中心に公共交通計画の策定やMaaSの実装についての質問が寄せられ、個別ブースに分かれて本局・支局職員との質疑応答を行いました。

なお、当日の講演資料についてはホームページに掲載し、シンポジウムの様子は YouTube にアップしております。

<https://www.tb.mlit.go.jp/chubu/tsukuro/symposium/index.html>

中部運輸局では今後もシンポジウムなどの機会を通じて、地域公共交通の課題や期待される将来像について広く共有するとともに、施策の推進に取り組んでまいります。



【坪井局長による開会挨拶】



【基調講演 横浜国立大学 中村先生】



【高松市 伊賀課長補佐】



【柴田菰野町長】



【東急(株)森田課長】



【パネルディスカッションの様子】



【熱気あふれる会場のようす】

近畿運輸局「お手伝いしましょうかにゃ？」運動開始！

(近畿運輸局)

東京パラリンピックを来年に控え、障害者スポーツ、バリアフリーに対する社会の関心が高まっています。近畿運輸局としてもこの機会を捉え、もっと「心のバリアフリー」推進するために何かできることはないか、と考え「お手伝いしましょうかにゃ？」運動をスタートしました。



「お手伝いしましょうかにゃ？」運動とは、2つの柱から成り、①従来から取り組んでいるバリアフリー教室や、バリアフリー法改正を受けた自治体への働きかけを一層強化していくこと、②職員全員で、自発的な幅広い交通バリアフリー行動を率先して行っていく運動のことを指します（率先行動）。また、運動の推進体制として「近畿運輸局交通バリアフリー大使」に近畿運輸局消費者行政・情報課の梶原係長が任命されました。（すみません、筆者です。）



①の自治体への働きかけについては、当局で行っているバリアフリー教室を広めていくため、自治体へ取組を紹介、バリアフリー教室開催のマニュアルを作成するなど、自治体独自で取り組んでいただけるよう後押ししています。実際に独自のイベントを開催する自治体などもあり、少しずつ効果が出てきています。



②の職員による率先行動とは交通バリアフリー行動（駅やバス停などで高齢者・障害者等で困っている様子の方がいたら、「お手伝いしましょうか？」と声をかけ、サポートすること等）を、日々の通勤等で積極的に行おうというものです。誰かが声を掛けているのを見ることで、結果的に声かけをしやすい雰囲気が作れるのではないかと考えています。また、一般社団法人運輸振興協会の協力を得て、のりたろうがデザインされた交通バリアフリーストラップを作成。日頃から身につけることで、率先して交通バリアフリー行動を行っていく意識づけを図ります。

ストラップの着用は任意ですが、多くの職員が通勤の鞆や職員証にストップを着けてくれています。また、このストラップは、バリアフリー教室の参加者や、イベント参加者にお配りし、啓発に役立っています。



10月8日には運動の開始式を実施し、全盲の落語家“桂福点”さんを講師に迎え、職員研修も行いました。福点さんの軽快なトークで視覚障害者の困りごと等について学んだあとは、実際にアイマスク、白杖を使い疑似体験、手引きの方法のレクチャーを受けました。ポイントは、動きについて一つ一つ声で説明する。視覚障害者の方の半歩斜め前を歩き、階段などでは真横に立って、一步ずつ先に登ったり降ったりする。また、誘導の際は肘や肩等どこを持ってもらうのが良いか、歩くペースはこれで良いかなど、分からないことは遠慮せず本人に聞くなど、やはりコミュニケーションが大切だということを再認識しました。また、声のかけ方から、電車でひとつ空いている席に案内する方法（膝が当たるまで前に進んでもらう）まで、基本的なことから上級編までみっちり教えていただきました。研修員からも「大変ためになった。」「なるほどと思うことがたくさんあった。」という感想がありました。後日バリエピソードを募集したところ、「出張先のバス停で白杖を持った方に声をかけてみた。その方は『大丈夫ですよ。ありがとう。』と笑顔で応えてくださったので、これからも声をかけようと思った。」「車いすの方に『押しましようか』と声をかけると喜ばれた。誰かが動く周りの人も協力しやすくなると思った。」など、前向きな投稿が寄せられました。



皆さまも、困っている方を見かけたら気負わず「お手伝いしましょうか?」の声かけをお願いいたします。初めての声かけは勇気が要りますが、一度言ってしまえばそれほどたいしたことでもないと感じます。そして断られても気にしないでください。また、サポートする際は、必ずご本人の意思を確認してください。そのほか、高齢者・障害者等に積極的に席を譲る、多目的トイレやエレベーターはなるべく使わない、点字ブロックの上は空けておくなどの些細なことも立派なバリアフリー行動です。ご協力をよろしくお願いいたします。

広島路面電車が大きく変わろうとしています

(中国運輸局鉄道部)

令和元年11月29日(金)午前11時30分より、中国運輸局長室で広島電鉄(株)に対する特許状の交付式を行いました。こちらは、今年4月24日(水)に広島電鉄(株)から提出された広島駅南口広場へ高架で進入する新規ルート(1.1Km)を整備する軌道事業の申請(軌道法第3条)に対する国土交通大臣による特許です。



特許状を土肥中国運輸局長(右)から広島電鉄(株)の椋田社長(左)へ

記念撮影

これにより、広島市内中心部と広島駅を結ぶ路面電車の乗車時間が約4分間短縮されるとともに広島駅でのJRとの乗換時間が約1分間短縮される見込みです。

今後、猿猴橋町電停は廃止となりますが、市内中心部の環状ルートを整備するとともに新規ルート上に新たな電停を設置し、利用者の利便性の向上を図って行く予定です。

広島駅南口広場再整備・駅ビルの完成イメージ [広島市提供]



外観イメージ



内観イメージ

今回の特許は、広島電鉄(株)として、創立以来「初」となるものです。中国運輸局鉄道部としては、今後も地域の関係者と連携を図りつつ、着実に鉄軌道事業の取組を推進して行きます。

地域公共交通セミナーin 四国を開催しました！

(四国運輸局)

四国運輸局では、10月30日（水）に高松市において、「地域公共交通セミナーin四国」を開催しましたので、その概要をお知らせします。

皆さんもご存じのとおり、鉄道やバスをはじめとする公共交通は地域における大切な移動の足となっていますが、近年担い手である運転者の不足が深刻化しており、黒字路線であっても運転者不足が原因で減便するような事例も見られます。必要な運転者を確保し、公共交通を持続可能なものとするためには、多くの方に公共交通の業界を就職先候補として認識してもらうことが重要となります。そのためには男性だけでなく、女性や若者といったすべての働く方にとって魅力ある職場環境を整備し、企業価値を高めていくことが必要と考えます。

そこで今回のセミナーでは、担い手の有力候補でもある女性の採用・定着に向けた取り組みを行っている一般社団法人女性バス運転手協会の中嶋美恵代表理事にご講演いただきました。中嶋氏からは、男性が多くを占めるバス業界において、女性を採用する際のポイントや配慮すべき事項などを他社の事例を交えながら、軽快なトークで説明していただきました。



【講演の様子】

また香川労働局の担当者からは、「くるみん」をはじめとした職場の魅力向上のための助成制度・支援制度を説明していただきました。四国運輸局自動車交通部からも、自動車運送事業における「ホワイト経営」について説明をしました。

地域における移動手段を持続可能なものとするためには、公共交通事業者だけの努力では限界があるのが現状です。このため、地方公共団体や住民をはじめとする関係者が公共交通事業者と一緒に、自分たちの移動手段をいかに確保していくか、また自分たちのまちの姿を将来どのようにしたいかという思いを共有して取り組んでいく必要があります。

四国運輸局では、地方自治体や交通事業者をはじめとする関係者を“つなぐ”取り組みを通じて、地域における持続可能な公共交通ネットワークを維持するための情報発信やアドバイスを引き続き行ってまいります。

地域公共交通のあり方を考えるシンポジウム 2019in 九州を開催しました

(九州運輸局)

令和元年 11 月 7 日（木）に鹿児島大学稲盛会館にて「地域公共交通のあり方を考えるシンポジウム 2019in 九州」を開催し、約 180 名の行政関係者、交通関係事業者、一般市民に参加いただきました。

<開催趣旨>

近年の高齢者による交通事故の多発、運転免許返納の動きを受け、高齢者等の移動手段の確保が重要性を増す一方、利用者の減少や運転者不足による公共交通サービスの縮小の流れが顕在化しています。そこで、本シンポジウムでは、地方が抱える交通サービスの諸課題に対する解決策の一つとして MaaS（モビリティ・アズ・ア・サービス）や自動運転、AI デマンドなどの新モビリティサービスに焦点を当てて講演いただくとともに、九州における観光と交通のあり方について有識者らに議論していただくことで、地域公共交通の維持・活性化に向けて関係主体が自ら参画する機運を醸成することを目的として開催しました。

<当日の様子>

基調講演では、日本工営株式会社、株式会社 NTT ドコモ、小田急電鉄株式会社の方々に、MaaS、自動運転及び AI デマンドについて貴重なお話をいただきました。また、九州地方整備局からは「居心地が良く歩きたくなるまちなかづくり」と題し、国内外を含む先進事例を紹介しながら、公共交通を軸としたコンパクトなまちづくりの必要性について講演しました。



講演者：日本工営株式会社 市本哲也 氏

演 題：自動運転でのラストマイルと地方交通

内 容：自動運転技術を実用化することで交通事故や交通渋滞の解決、過疎地等での移動手段の確保を目指している。講演では兵庫県三木市における自動運転車両のシェアリングによりマイカー・タクシーより安価、かつ、バスより利便性が高い交通手段を確保する取組等について紹介いただきました。



講演者：株式会社 NTT ドコモ 深井秀一 氏

演 題：IoT×AI による移動予測と交通

～次世代モビリティに向けたドコモの取り組み～

内 容：AI タクシーの取組として、人流・気象などのデータ分析によりタクシーの需要予測を可視化し、実車率を向上させた事例について紹介いただきました。



講演者：九州地方整備局 田中耕介 都市整備課長

演 題：居心地が良く歩きたくなるまちなかづくり

内 容：立地適正化計画と地域公共交通網形成計画の連携により土地利用と公共交通に関する取組を一体的に展開する枠組について説明を行い、国内外の事例を紹介しながら、コンパクトなまちづくりの重要性について講演しました。



講演者：小田急電鉄株式会社 藤垣洋平 氏

演 題：共通データ基盤「MaaS Japan」で実現できる
MaaS アプリ&サービスのご紹介

内 容：MaaS アプリ「EMot」の設計思想や、現在行われている「観光型 MaaS」、「郊外型 MaaS」、「MaaS×生活サービス」の3つの実証実験の取組状況を紹介いただきました。また、海外アプリとの連携による海外旅行者が利用しやすい環境づくりについて、講演いただきました。

パネルディスカッションでは、コーディネーターに大分大学の井上教授、パネリストに鹿児島商工会議所の岩崎会頭、肥薩おれんじ鉄道株式会社の出田代表取締役社長、一般社団法人九州観光推進機構の桂原副会長、公益社団法人経済調査協会の大谷調査研究部次長を迎え、アドバイザーである九州運輸局長及び九州地方整備局建政部長とともに、約 80 分間にわたり討論を行いました。運転者不足など地域公共交通が抱える課題を踏まえ、「観光との連携」「IoT の活用」等の観点から、地域公共交通の活性化について意見を交わしました。



のりたろう活動報告
「駅祭ティング2019 in 天王寺公園」
「のってまもろう！ちいきのこうつうイベント in 丹波ゆめタウン」に登場！
(近畿運輸局)

10月20日(日)大阪市の天王寺公園(てんしば)にて開催された第26回「鉄道の日」記念イベント「駅祭ティング2019 in 天王寺公園」と、11月16日(土)兵庫県丹波市にあるゆめタウン丹波にて、開催された「のってまもろう！ちいきのこうつうイベント」にのりたろうが登場しました。

イベントの来場者はそれぞれ「駅祭ティング」が1万4千人、「のってまもろう！ちいきのこうつうイベント」が450人にのぼりました。



お年寄りや体の不自由な方が困っているのをみかけたら、『お手伝いしましょうか』と声をかけるにゃ！

踏切では一旦停止と安全確認をし、安全通行に努めるにゃ！



駅祭ティングのステージにて

「駅祭ティング」では、ステージに上がり、心のバリアフリーの啓発、踏切事故防止キャンペーンのPRを行いました。小さなお友達の「のりたろう～」の呼びかけに混じって、大きなお友達の「のりたろうありがとうー！」の声も。またブースにて、バリアフリークイズを実施。チャレンジした方に“交通バリアフリーストラップ”等のりたろうグッズをプレゼントしました。こちらもちびっ子づれのファミリーを中心に、行列ができるほどの大盛況となりました。

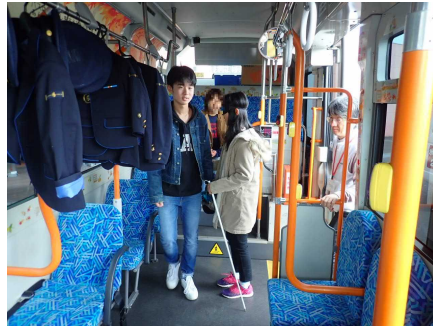


バリアフリークイズは大盛況



交通バリアフリーストラップ

「のってまもろう！ちいきのこうつうイベント」では、神姫グリーンバスさんの車両をお借りした視覚障害の疑似体験や、バリアフリークイズを実施。この日は丹波市の小学校で統一の行事があったそうで人出が少なかったのですが、のりたろうが集客&体験のお手伝いをがんばってくれました。



そして、地元で絶大な知名度のある兵庫県マスコットの『はばタン』、丹波市のキャラクター丹波竜の『ちーたん』と並び、イベントを盛り上げました。子供たちも初めて見るのりたろうに「かわいい～！！」と大興奮。しっかり認知度アップを図ってきました。



地域の公共交通を利用するにゃ！

左から、はばタン、ちーたん、のりたろう

< 掲 示 板 >

☆ 地域公共交通支援センター

交通政策課では、市町村をはじめとする各地域の関係者が、地域公共交通の確保・維持に取り組む際に有効に活用いただくため、全国各地における様々な先進事例（約300事例）を蓄積している「地域公共交通支援センター」を運用しております。

「地域公共交通支援センター」は、地域、人口、交通モード等により、先進事例を検索することも可能となっております。是非ご活用下さい。

<地域公共交通支援センター> <http://koutsu-shien-center.jp/index.html>

☆ 公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」

公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」（以下「キャラクター」という。）は、公共交通の利用促進について、より効果的な広報・啓発を行うことを目的としております。

キャラクターの使用を希望される場合、地方運輸局交通政策部交通企画課までお問い合わせ下さい。申請手続きについてご案内致します。

なお、「地域公共交通支援センター」においても、キャラクターの申請手続き、使用方法、FAQをご案内しております。

公共交通利用促進キャラクター のりたろう



大好きな公共交通機関で働くことを夢見ていたが、ネコでは単独で乗り降りができないことから一念発起。自らが新たなハイブリッド公共交通機関に進化することで夢を実現し、現在は利用促進PRの先頭に立って活動している。

駅長を務めるなど活躍中の仲間達を同じネコとして尊敬しており、いつか会って公共交通について熱く語り合いたいと思っている。

- ・移動手段は「ネコ足歩行」
- ・自由に移動できるが、疲れてしまうので 100 歩ごとに休憩が必要
- ・乗車可能人数は運転士（のりたろう本人）を含めて 1 名のみ！

読者の皆様からのご要望や全国に共有したい情報等がございましたら、以下の【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【お問い合わせ先】

国土交通省総合政策局交通政策課 梅澤
〒100-8918

東京都千代田区霞が関2-1-3（中央合同庁舎3号館3階）

TEL：03-5253-8986（直通）

FAX：03-5253-1513

E-mail: koutsukeikaku_joho@mlit.go.jp

★国土交通省HP（情報発信のページ）

http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport_tk_000039.html

